

# 東京湾海況情報 24-8

## 東京湾水質調査結果 (平成24年11月)

(平成24年11月13日発行)

千葉県水産総合研究センター  
 東京湾漁業研究所  
 〒293-0042 富津市小久保3091  
 TEL 0439-65-3071  
 E-mail futtsu-gk@mz.pref.chiba.lg.jp  
 千葉県農林水産技術会議

資料 水質調査 11/5：内湾(わかふさ)、内房海域(ふさみ丸)  
 関東・東海海況速報(11/5)、東京湾口海況図(11/5)  
 モニタリングポスト(11/5：国土交通省関東地方整備局、海上保安庁)  
 神奈川県水産技術センター(11/5)

### 【 水温・塩分の状況 】

内湾の表層水温(図1)は先月終わり頃からの朝方の冷え込みによってさらに低下し、17℃台後半～18℃台になっています。塩分は31～32PSU台前半で、平年よりやや高めでした。

一方、内房海域の表層水温は18～22℃台、塩分はほぼ33～34PSU台前半で、金谷から剣埼を結ぶライン以南では水温22℃台、塩分34PSU台以上の水塊がみられています。また、縦断面の水温・塩分の鉛直分布(図3)をみても、水温22℃以上の水塊が勝山沖の表層から底層付近までみられています。

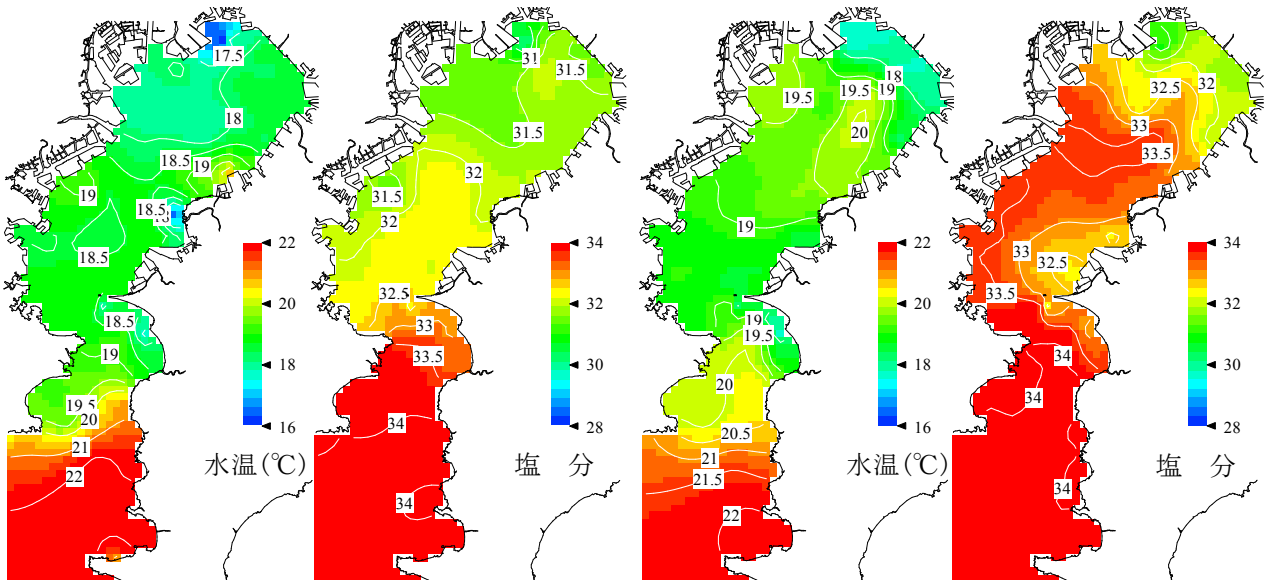


図1 水温・塩分分布 (表層)

図2 水温・塩分分布 (底層)

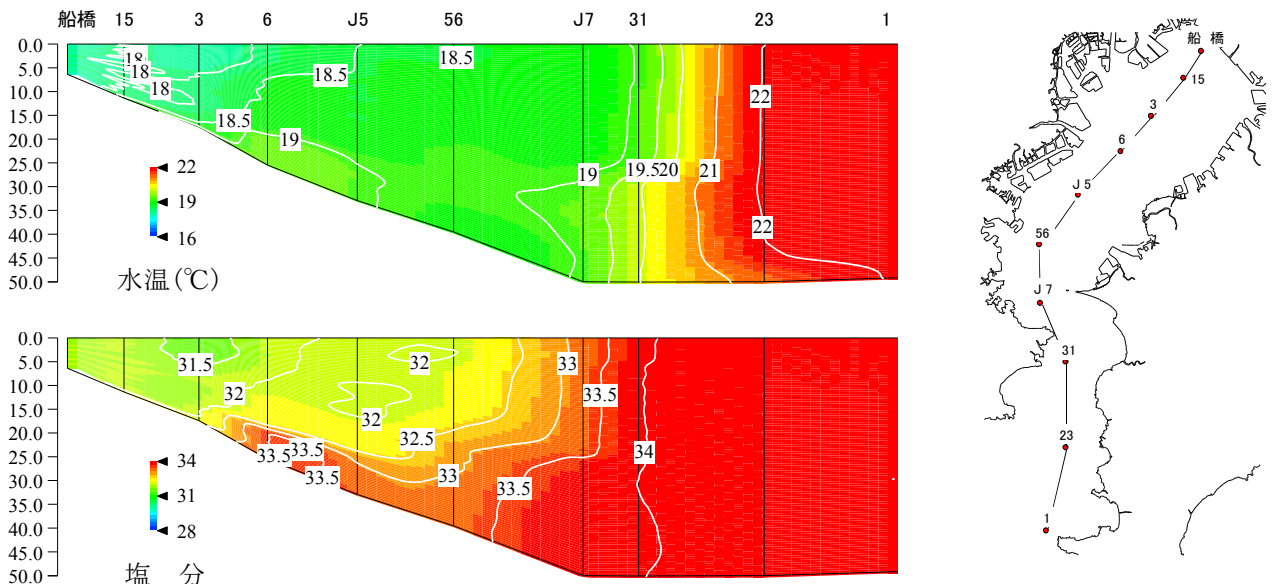


図3 縦断面の水温・塩分の鉛直分布(上：内湾、下：内房海域、右：調査ライン)

### 【 赤潮の状況 】

赤潮は依然全域で発生していません。内湾では、キートケロス(*Cheatoceros* sp.)やコスキノディスクス(*Coscinodisus* sp.)などのケイ藻類がやや多くみられています。透明度は最も低いところでおおむね4m以上あり、水色もほぼ緑色基調でした。

一方、内房海域は北部海域でケイ藻のキートケロス(*Cheatoceros* sp.)がやや多くみられていました。

※ 千葉県の赤潮の目安は次のとおりです。

色	: オリーブ～褐色
酸素飽和度	: 150%以上
透明度	: 1.5m以下
pH	: 8.5以上
クロロフィルa	: 50 $\mu$ g/L以上

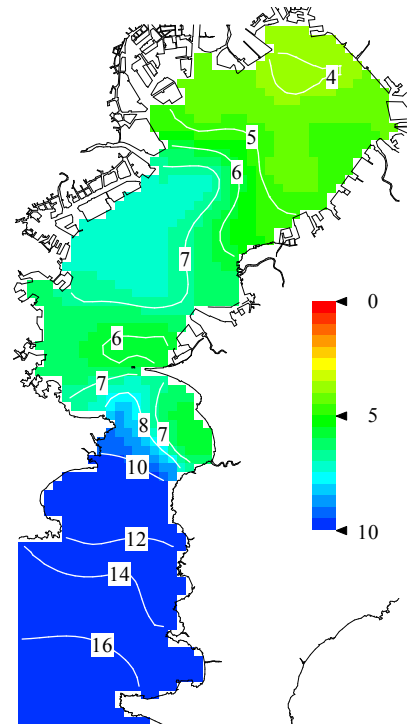


図4 透明度の分布(m)

### 【 貧酸素水塊の状況 】

内湾底層部の溶存酸素量(図5)は北東部及び東京灯標付近でやや低下していますが、貧酸素水塊はほぼ終息した模様です。

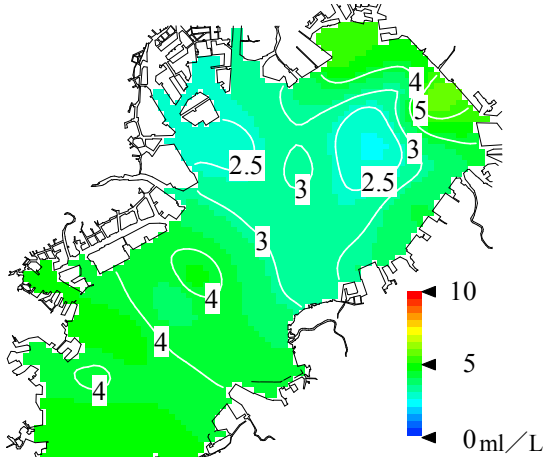


図5 底層部の溶存酸素量の分布(内湾)

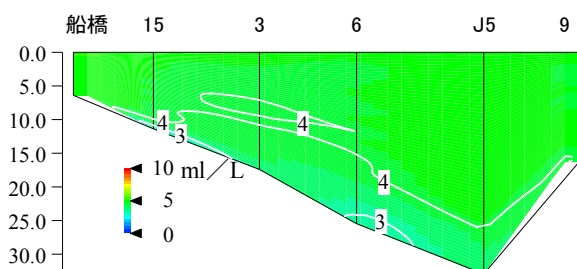


図6 縦断面の溶存酸素量の分布(内湾)

※ 千葉県水産総合センターでは、溶存酸素量2.5ml/L(酸素飽和度50%)以下を貧酸素水塊としています。

### 【 栄養塩の状況 】

湾内の表層栄養塩濃度(図7)は保田から館山湾にかけて溶存無機態窒素(DIN)、リン酸態リン( $PO_4-P$ )が平年より少なくなっていますが、ほぼ全域でほぼ平年並みになっています。

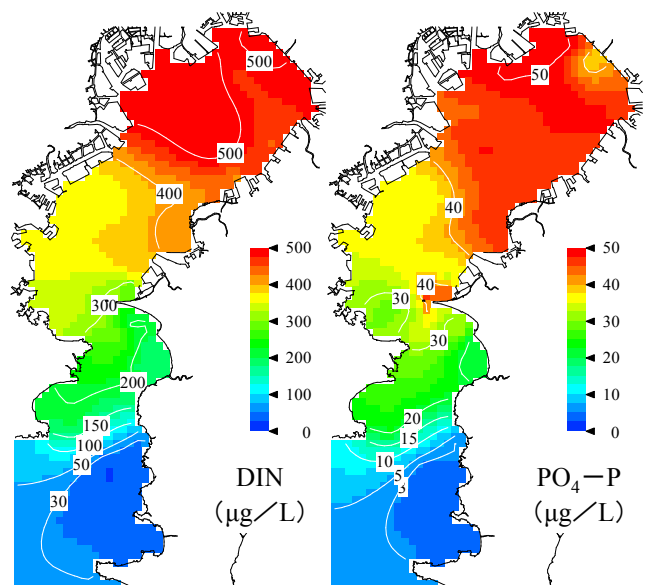


図7 栄養塩濃度の分布(表層)

## 【黒潮の状況】

黒潮はほぼN型基調で推移し、その流軸は、5日現在遠州灘沖でやや蛇行した後、三宅島と御蔵島付近を通り、房総半島南東岸を離岸しながら北東方向に流れています(図8)。

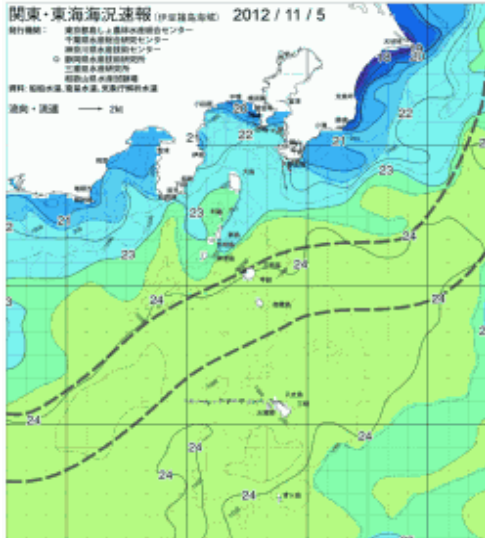


図8 黒潮の動き (平成24年11月5日)

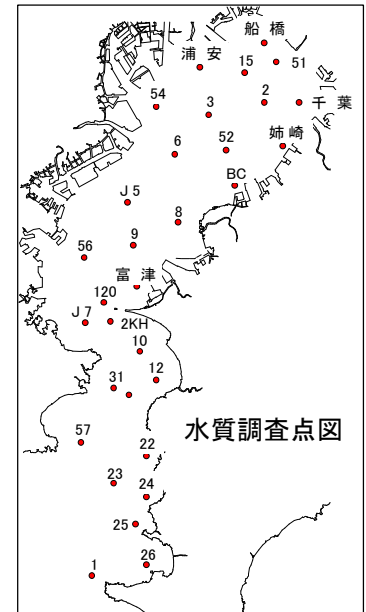


表1 主な調査点の水質調査結果 (表層, 溶存酸素量のみ底層)  
( ): 最近10年間の平均値 (2002~2011年)

調査点	水温 (°C)	塩分	透明度 (m)	pH	溶存酸素量 (ml/L)	アンモニア態窒素 (µg/L)	溶存無機態窒素 (µg/L)	リン酸態リン (µg/L)	クロロフィルa (µg/L)
船橋	17.6 (19.0)	31.61 (30.82)	4.2 (3.0)	8.2 (8.2)	6.5 (3.5)	55 (71)	507 (411)	51 (55)	7.1
st.15	18.0 (18.9)	31.85 (30.25)	3.8 (3.3)	8.2 (8.3)	3.9 (2.0)	65 (50)	467 (470)	49 (43)	8.8
st.3	17.7 (18.7)	31.26 (29.81)	5.0 (3.6)	8.3 (8.3)	4.5 (2.1)	40 (44)	561 (503)	45 (34)	8.1
st.6	18.1 (18.6)	31.82 (29.29)	7.5 (3.8)	8.2 (8.3)	4.2 (3.0)	53 (50)	473 (515)	47 (34)	5.3
st.9	18.4 (18.8)	32.24 (30.00)	7.5 (4.5)	8.3 (8.3)	5.7 (4.0)	16 (57)	383 (519)	39 (35)	6.1
st.BC (盤洲Cブイ)	20.6 (19.9)	31.85 (30.60)	5.0 (3.7)	8.2 (8.3)	4.5 (3.5)	38 (35)	414 (372)	45 (36)	6.2
st.8 (盤洲A南)	18.3 (19.1)	32.20 (29.64)	6.5 (4.2)	8.2 (8.3)	5.2 (3.6)	44 (42)	406 (394)	46 (36)	5.2
富津	18.7 (19.1)	32.10 (31.31)	6.0 (4.8)	8.3 (8.2)	6.0 (4.3)	25 (46)	354 (360)	34 (27)	3.6
st.2KH (第2海ほ下)	18.6 (19.2)	32.73 (31.94)	7.5 (6.2)	8.2 (8.2)		13 (30)	304 (281)	34 (28)	3.0
st.31	19.1 (19.6)	33.90 (32.36)	10.0 (7.5)	8.2 (8.2)		11 (22)	219 (243)	27 (23)	1.4
st.23	22.1 (21.4)	34.46 (33.80)	14.0 (15.2)	8.2 (8.2)		3 (12)	9 (70)	3 (8)	0.8
st.1	22.2 (21.7)	34.14 (33.96)	17.0 (15.7)	8.2 (8.2)		8 (15)	27 (57)	3 (6)	1.1
st.10 (下洲沖)	18.9 (19.5)	33.31 (32.31)	6.5 (6.3)	8.2 (8.2)		8 (20)	232 (205)	28 (22)	0.9
st.12 (湊沖)	18.6 (19.4)	33.33 (32.57)	6.5 (6.0)	8.3 (8.2)		8 (22)	164 (216)	19 (22)	
st.22 (保田沖)	21.4 (21.3)	34.03 (33.80)	12.0 (13.7)	8.2 (8.2)		5 (12)	23 (81)	3 (8)	0.9
st.24 (富山沖)	21.9 (21.4)	34.09 (33.89)	13.0 (13.9)	8.2 (8.2)		3 (13)	9 (67)	2 (7)	0.6
st.26 (館山湾内)	22.2 (21.7)	34.26 (33.92)	15.0 (13.7)	8.2 (8.3)		8 (13)	16 (67)	2 (8)	

注) 透明度、pH、クロロフィルaの欄の橙色は赤潮の基準に、溶存酸素量の欄の青色は貧酸素水の基準に達していることを示しています。